

平成28年度 体育科授業改善推進プラン

第1学年

<児童の実態>

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定] 児童が能力に合わせて楽しめる課題を設定する必要がある。</p> <p>[学習形態] 内容によって、ペア・グループ・全体など体形を変える。能力別や均等分けにする等変化をもたせる。また、集団の中で課題に取り組む場面を増やし、お互いに学び合い高め合える場を増やす。</p> <p>[指示・支援] 簡潔で短い指示を出し、児童の運動量を確保する。何をやる時間なのかを、実演しながら分かりやすく示す。</p> <p>[場の工夫・学習資料] 学習内容に配慮し、安全に運動できる場を設定する必要がある。分かりやすい学習カードを用いる。</p> <p>[評価の方法] 学習カード・行動観察から評価をする。</p>	<p>[学習のねらいの明確化] 何をやる時間かを示し、意識させながら学習させる。</p> <p>[学習形態の工夫] 運動の特性に適した学習形態を適用する。能力別や均等分けなどグルーピングを工夫し関わり合いから学べるようにする。</p> <p>[指示・支援] 学習の流れをパターン化し、児童にとってわかりやすいように示す。運動が苦手な児童には、講師やボランティアと連携し、個別に支援する。</p> <p>[場の工夫・学習資料] 児童の実態を的確にとらえ、学習の流れが分かるような資料やカードを使用する。配慮が必要な児童には、講師やボランティアに入っていたり、安全面に十分配慮する。</p> <p>[評価の工夫] 1時間の重点評価項目を定め、学習カード・行動観察から見とり、次の学習に生かす。</p>	<p>[補充的な学習指導] 運動の楽しさを十分に味わえていない児童には、個別に声かけ・補助を行う。遊びを通して、楽しんで運動することができるように活動を工夫する。</p> <p>[発展的な学習指導] 課題を十分に克服できている児童に対しては、記録に挑戦したり、よりよい動きを目指したりするなど、運動の楽しさをより実感できるようにする。友達同士で教え合いができるように声かけをする。</p>

第2学年

<児童の実態>

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定] 児童が自分の能力に合わせて無理なく楽しめる課題を設定する。</p> <p>[学習形態] 内容によって、ペア・トリオ・グループ・全体など形態を変える。能力別や均等分けなどグルーピングも変えることも必要である。</p> <p>[指示・支援] 簡潔で短い指示を出し、児童の運動する時間を確保する。 児童自ら、より効率的な方法や、より楽しむための工夫を考えることができるような助言をする。</p> <p>[場の工夫・学習資料] カードを用いて体育学習をする。 動き方をイラストや写真等で具体化し、児童がイメージしやすいようにする。</p> <p>[評価の方法] 学習カード・行動観察から評価をする。</p>	<p>[学習のねらいの明確化] 学習カードにめあて、振り返りを書かせる。(何をどのように工夫して取り組んだのかを書かせる。)</p> <p>[学習形態の工夫] 運動の特性に適した学習形態を適用する。能力別や均等分けなどグルーピングを工夫し関わり合いから学べるようにする。その中で良い学び合いがあった場合は紹介し、模範の例として広げていく。</p> <p>[指示・支援] 一単位時間の学習の流れを統一し、児童が何をすべきなのか、明確にする。その中で、単元の段階によって時間の配分を工夫していきたい。</p> <p>[場の工夫・学習資料] 基本となる形は、なるべくシンプルな物を教師から提示し、より楽しむためにはどのように工夫するかを考えさせていきたい。</p> <p>[評価の工夫] 一時間の重点評価項目を定め、学習カード・行動観察から見とり、次の学習に行かせるようにする。</p>	<p>[補充的な学習指導] 運動の楽しさを十分に味わえていない児童には、教師が積極的にかわかり、声かけ・補助を行う。良くなったところは、具体的かつ積極的に褒めて、児童一人一人が運動の楽しさを感じることができるようにしていく。</p> <p>[発展的な学習指導] 課題を十分に解決できている児童に対しては、記録に挑戦したり、よりよい動きを目指したりするなど、運動の楽しさをより実感できるようにする。また、友達のお手本となるように、なぜ上手くいっているのか、そのポイントを考えさせていきたい。</p>

第3学年

<児童の実態>

<p><実態の分析> 関心・意欲においては、毎単元意欲的に取り組む児童が多い。また、ゲーム等では、チーム内で協力したり、声をかけあいながらできるようになってきている。ただ勝ち負けにこだわりすぎてトラブルになってしまうこともある。 思考・判断においては、めあてをもって取り組み、ふり返ることができる児童が増えてきているが、前時の学習の振り返りを基に、本時の具体的なめあてをもたせるには、個々への声かけが必要である。 技能においては、個人差が大きい。ただ、苦手なことにも挑戦しようとする児童は多く、できるようになったことが自信につながっている。</p>		
<p><指導方法の課題></p>	<p><具体的な授業改善策></p>	<p><補充・発展指導計画></p>
<p>[課題設定] 毎時間全体へのめあてを伝えているが、個々のめあてが具体的になっていないまま始めていることがある。</p> <p>[学習形態] ゲームはグループで行っているが、グループ作りは教師主導で行っており、児童によるグループ作りはできていない。</p> <p>[指示・支援] 言葉での指示や指導が多く、一度では伝わりきらないことがある。</p> <p>[場の工夫・学習資料] グループでの学習、ペアでの学習において子供たちどうしが的確に助言をおこなうことができていない。</p> <p>[評価の方法] 学習カードを使っているが振り返りやめあての記入のみになっている。</p>	<p>[学習のねらいの明確化] 個々のめあてを具体的にさせてから行う。</p> <p>[学習形態の工夫] ペアやグループでの学習を積極的に取り入れ、お互いに見合い助言する時間を取り入れる。また、ゲーム領域の学習では、児童が相談してグループ作りができるようにする。</p> <p>[指示・支援] 言葉だけでなく、写真や図等の資料も活用する。また、一人一人に適切な支援ができるように実態を把握しておく。</p> <p>[場の工夫・学習資料] 学習カードを活用し、カードにポイントを具体的に書き、自分で取り組む時、友達にアドバイスする時の参考になるようにする。</p> <p>[評価の工夫] 学習カードの使い方を子供の実態に合わせて簡略化し、記入をしやすくすることでカードの記入を徹底し、自分の学習課程を振り返り、自己評価にも活用できるようにする。</p>	<p>[補充的な学習指導] 毎単元の最初に学習内容に関する補助的な運動を取り入れる。</p> <p>[発展的な学習指導] 学習の最後にグループや個人での発表を取り入れ達成感をもたせる。</p>

第4学年

<児童の実態>

<p><実態の分析> ・運動に対しては意欲的で、授業以外の休み時間にも体をすすんで動かしている児童が多い。 ・休み時間は、男子のほとんどが外遊びを楽しんでいる。三歩当て、ドッジボールなどのボール遊びが多く、女子は鬼ごっこなど用具を用いない遊びをしていることが多い。 ・1学期は集団行動・体づくり運動・かけっこ・リレー、表現運動(運動会の練習)、ゲーム(ベースボール型ゲーム)、浮く・泳ぐ運動の領域の学習を行った。 ・個人の技能に重点が置かれる運動については、積極的に楽しく友達とかかわりながら運動できている。一方、ゲームのような集団対集団の運動になると、勝敗にこだわる面があった。</p>		
<p><指導方法の課題></p>	<p><具体的な授業改善策></p>	<p><補充・発展指導計画></p>
<p>[課題設定] 個人のめあてを意識した運動はできていないことが多い。また、体育の学習でのめあての立て方を理解していない児童も見られる。</p> <p>[学習形態] チーム・ペアなどかかわりを通して学べる授業を実践した。うまくできている児童とそうではない児童に分かれている。作戦を考える際についてもチームによって差がある。</p> <p>[指示・支援] 簡潔で短い指示を出し、児童の運動量を確保する。授業の流れや、活動のねらいを十分に理解できていない児童も見られる。</p> <p>[場の工夫・学習資料] 場に応じて身に付く技能を意識して取り組むことは充分とはいえない。</p> <p>[評価の方法] 学習カード・行動観察を中心に評価した。指導と評価を一体化しきれない面もあった。</p>	<p>[学習のねらいの明確化] 学習カードに個人のめあてを記入させ、振り返りを行う。めあては「～するために～する。」という書き方を定着させる。また、個人だけでなくチームとしてのめあても設けられるようする。</p> <p>[学習形態の工夫] 運動の楽しさを充分に実感できるように、運動の特性に適した学習形態を適用する。チーム編成を工夫し、それぞれの児童が力を発揮できるように学習形態を決定する。</p> <p>[指示・支援] 学習の流れを目で見てすぐわかるように掲示物で示す。単元中なるべく、学習の流れを変えないようにする。活動の流れやねらいを理解できていない児童には、できる限り担任が直接かかわる。</p> <p>[場の工夫・学習資料] 児童の実態を的確にとらえ、児童の願いに応じた資料を提示して支援する。</p> <p>[評価の工夫] 一単位時間の重点評価項目を定め、それを見取るための方法(学習カード・行動観察)を明確にする。</p>	<p>[補充的な学習指導] 運動の楽しさを十分に味わえていない児童には、教師が積極的にかかわり、声かけ・補助を行う。休み時間などにもできる運動を紹介し、運動に親しもうとする気持ちを育む。</p> <p>[発展的な学習指導] 課題を十分に解決できている児童に対しては、記録に挑戦したり、よりよい動きを目指したりするなど、運動の楽しさをより実感できるようにする。</p>

第5学年

＜児童の実態＞

<p>＜児童の実態＞</p> <p>運動に対しては前向きに取り組む児童が多く、男女間のかかわりの豊かにできる雰囲気がある。1学期に行った短距離走・リレーの学習では減速の少ないバトンパスを身に付けるように、友達と助け合いながら学習を進めた。体育ではないが、学級活動でゲームをしたとき、勝敗を受け入れることができない児童が数名見られた。</p> <p>＜実態の分析＞</p> <p>やるべきことが明確だと思い切って運動ができる。一方、学習カードの記述を見ると、自分の課題をとらえて、主体的に解決しようとする意識が弱く、思考・判断面に課題があるといえる。運動をより楽しく、気持ちよく行うためにどうすればよいかを考えるような学習を展開し、思考・判断力を高め、運動に対する資質・能力の向上を図りたい。</p>

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>〔課題設定〕</p> <p>クラス統一のめあてを意識して運動できているが、自己の課題をつかむことに課題がある。</p> <p>〔学習形態〕</p> <p>友達のかかわりを、技能の向上につなげることができた。器械運動・陸上運動などの、個人の技能差がより明確になる領域では、支援が必要と考える。ボール運動では、勝敗を受け入れる態度を育みながら、楽しく運動できる力を育てる必要がある。</p> <p>〔指示・支援〕</p> <p>技能がC規準の児童に対する支援を十分に行い、B規準の技能は身に付けられるようする必要がある。</p> <p>〔場の工夫・学習資料〕</p> <p>場の工夫は効果的に行えたが、学習資料は提示したものの、十分に生かすことができなかった。</p> <p>〔評価の方法〕</p> <p>授業中の評価が全員に充分できたとはいえない。</p>	<p>〔学習のねらいの明確化〕</p> <p>学習カードに書いた自分のめあてを、より意識できる声掛けをしていく。また、それができている児童を紹介し、全体に広げていく。</p> <p>〔学習形態の工夫〕</p> <p>児童の実態や運動の特性に応じて、ペアやトリオ、グループを構成し、運動に意欲的に取り組める環境を整えていく。ボール運動では、単元の中で全員が勝つ喜びを味わえるような展開を目指して、単元計画を立てていく。勝つ喜びは相手がいるからこそ味わえるものということを実感させ、勝敗を受け入れる態度を育みたい。</p> <p>〔指示・支援〕</p> <p>技能がC規準の児童に、教師が直接指導・助言できる時間を確保するために、児童同士が学び合える方法や場を設定し、授業を展開していく。</p> <p>〔場の工夫・学習資料〕</p> <p>児童にとって必要感のある資料を提示し、学習資料が技能の向上や運動を楽しむことに役立つことを実感させる。必要があれば資料を拡大して、いつでも活用できるように配慮する。</p> <p>〔評価の工夫〕</p> <p>一単位時間の重点評価項目を定め、それを見取るための方法(学習カード・行動観察)を明確にする。また、授業前に評価計画を立て、一単位時間内での指導に生かしていきたい。</p>	<p>〔補充的な学習指導〕</p> <p>運動の日常化を図れるように、休み時間にできる運動を紹介する。運動に苦手意識がある児童は、個別に指導する時間を設けるなどして、支援する。</p> <p>〔発展的な学習指導〕</p> <p>安全性を十分に考慮したうえで難易度の高い技や動きを紹介し、できる範囲で取り組ませる。</p>

第6学年

＜児童の実態＞

<ul style="list-style-type: none"> ・運動に進んで取り組む児童が多い。また、準備や片付けも積極的にを行う児童が多い。 ・学習カードには、気づいたことやできるようになったことを丁寧に書こうとする児童が多い。 ・器械運動系に苦手意識をもっている児童が半数以上いる。 ・「教え合い」を主体とした授業では、積極的に称賛の言葉をかけたり、技能のポイントを伝えたりする児童の姿が見られた。

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>〔課題設定〕</p> <p>・自己の課題を捉えさせることが難しい。</p> <p>〔学習形態〕</p> <p>・「教え合い」が活発になるよう、グルーピングを工夫する必要がある。</p> <p>〔指示・支援〕</p> <p>・指示や説明が長くなってしまい、児童の運動量を十分に確保できていない。</p> <p>〔場の工夫・学習資料〕</p> <p>・運動する楽しさを味わえるよう、また、課題解決に向けて練習できるよう、多くの場を設定する必要がある。</p> <p>〔評価の方法〕</p> <p>・行動観察、学習カードを中心に評価を行っている。技能に関しては、毎時間の伸びが必ずあるので、なるべく毎時間評価できるようにする必要がある。</p>	<p>〔学習のねらいの明確化〕</p> <p>・児童の見取りを十分に行い、児童が適切なめあてを立てられるようにしていく。</p> <p>〔学習形態の工夫〕</p> <p>・ペアやトリオなどのグループで学び合える学習形態を整えていく。</p> <p>〔指示・支援〕</p> <p>・簡潔な指示や説明を心がけ、児童の運動量を確保できるようにしていく。</p> <p>〔場の工夫・学習資料〕</p> <p>・校庭や体育館の広さを考慮しながら、児童にとって魅力的な場、児童の願いに応じた場を設定していく。</p> <p>〔評価の工夫〕</p> <p>・児童の頑張りが伸びを見とって評価できるよう、手元に名簿を持ち、いつでも記入できるようにしていく。</p>	<p>〔補充的な学習指導〕</p> <p>その運動をするのにどんな力をつければよいかを明確にし、それに応じたストレッチや筋力アップの運動を取り入れていく。</p> <p>〔発展的な学習指導〕</p> <p>安全性を十分に考慮したうえで難易度の高い技や動きを紹介し、できる範囲で取り組ませる。中学校へ向けて、運動からより競技に近い技や試合を経験させる。</p>